

会 議 録

会 議 名 平成 25 年度 第 3 回 社会教育委員会

開催日時 平成 26 年 3 月 17 日（月）午前 9 時 30 分から 11 時 10 分まで

開催場所 東浦町文化センター 2 階 視聴覚室

出席者 社会教育委員 石原弘幸氏、梶川達彦氏、長坂典子氏、鈴木万里子氏、
久米清之氏、田頭美紗子氏、川澄知里氏、天野圭二氏、
万徳久志氏、恒川 渉氏、松下玲子氏
事務局 教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、スポーツ課長、
課長補佐兼生涯学習係長、課長補佐兼文化財係長、
生涯学習指導員

欠席者 教育長

議 題 1 平成 26 年度教育部予算について

2 その他

傍聴者の数 なし

審議内容

生涯学習課長

次第に従い会を進める。委員長より挨拶をいただく。

委員長

- ・現在は、高齢者の外出を促す手立てが必要である。
- ・ボランティアセンターの開設を機に、様々な方と交流し、新しい講座の開設など新たな活動が広がることを願う。
- ・本日の協議が、26 年度の魅力ある活動につながることを願う。

委員長

次第に従い、議事を進める。1 号議案「平成 26 年度教育部予算について」について、事務局から説明を求める。

事務局 生涯学習課、資料館、図書館、スポーツ課の順で、配付資料に基づき各課の 26 年度の活動概要を説明。

[生涯学習課関連 質疑・意見交換]

委員

大学連携講座で交流を予定している大学はどこか。また、新規の大学はどこか。

事務局

星城大学、至学館大学、日本福祉大学である。至学館大学、日本福祉大学の 2 つが新規である。

委員長

連携講座の内容は何か。

事務局

至学館大学でいえば、親子講座（料理、於大公園での自然観察）などである。

委員

落語を楽しむ会への委託が長く続いている。町との関連は何か。

事務局

講座ばかりではなく、住民のお楽しみも文化センターとして行うことがよいという指導を受けて始まった。とん馬氏、平林氏など地元及び近隣市町出身者が行っており、固定した観客も多い。

委員

落語以外の活動は検討していないか。また、一部の観客のみを対象として町費を使ってよいのか。

事務局

現状は、落語を楽しむ会には、毎年多くの参加者があり、温かく迎えられている。今後、よく検討していきたい。

委員

高齢者教室は平成 25 年度の事業仕分けにおいて廃止との判定が下されたが、自分自身はやめてはいけない事業と考える。老人が参加する機会をつくっており、有意義な活動である。

事務局

事業仕分けでは、活動内容はよいが老人に特化していることはいけないという指摘であった。今後は、福祉課、健康課、生涯学習課、社会福祉協議会などで連携し進めていきたい。大人全体を対象として行えばよいと考えている。実施する上では、老人クラブに事業運営を委託するか、生涯学習課が企画・運営を直営するかについてはよく検討したい。

委員長

東浦町では地域毎に開催されており参加しやすい行事となっている。高齢者には大切な事業であり、各地域で続けられるように努めてほしい。

委員

担当者や資金が多い市町であれば直営でもよいが、東浦町の規模では、生涯学習振興という観点であれば、実行委員に主体性を持たせ、町が委託という形で補助していくのが活動の活発化につながるのではないかと考えている。委託を増やす方向がよいと考える。また、古典芸能の紹介では、落語が最も親しみやすいのではないかと考えている。

事務局

明青会活動は各地区の老人クラブに委託してきた。交通機関の発達した都会であれば中央で行えばよいという仕分け人の考えはあてはまるが、東浦町では、町の直営よりは、住民参加の運営がよいと考える。今後の運営の形はよく検討していきたい。

委員

委託と補助はどのように違いがあるのか。

事務局

活動者からすれば、委託の方が委託金の執行はしやすい。

委員

高齢者教室は現在、出席率は大変に高い。形は変わろうとも、続けてほしい。

委員

高齢者教室に特化してはいけないという指摘は疑問である。高齢者には高齢者のライフステージにあった講座が必要である。

委員長

郷土歴史研究で小川氏の研究を行うというが、姉妹都市の関係で行うのか。

事務局

歴史事実の吟味が主な目的である。かつて、水野氏の前に本町域にいた小川氏が土岐氏に攻め滅ぼされた際、一族が逃げている。そして、逃げた先には諸説あり、東浦町は「瀬戸市の水野郷」に逃げたと考えているが、小川村関係者は、「長野県の現在の小川村」に逃げたと考えている。そのために東浦町の歴史研究員と小川村の研究員

とで交流し、こうした相違点を詰めていくことを考えている。

委員長

郷土歴史研究員の委嘱はそのためか。

事務局

小川村に限定はしていない。広く東浦町の歴史を研究していただきその成果を町に生かすために3名を委嘱している。さらに増やし、将来的には歴史研究会を立ち上げていきたいと考えている。

[図書館関連 質疑・意見交換]

委員

ある小学校では寄贈文庫があり児童に好評である。予算的に有益と考えるが、町図書館でもこうした寄贈を受けることはできないか。

事務局

現在は蔵書数が多く、寄贈文庫のスペース確保は難しい。なお、雑誌スポンサー制度はスポンサーにも図書館にも有益と考えているが、応募企業は現在はまだない。

委員

スポンサー探しとして、商工会へ働きかけをしているか。

事務局

図書館に出入りしている業者にはお願いをしている。

委員

商工会員は地元の事業主であり、雑誌スポンサーになれば、知名度も上がるなど有益である。今後も働きかけを願う。小学校への寄贈文庫では本棚も寄贈を受けている。スペースがなければ本棚の寄贈も一緒に受けてはどうか。

事務局

現在は、スペース的にそうした本棚を置くことも難しい。

委員

町図書館の町民一人当たりの年間貸し出し冊数はどれほどか。

事務局

町民一人当たり7.2、登録者一人当たりでは19.2である。いずれも、県・全国平均を上回っている。

委員

愛知県平均は6.2であり、町図書館の貸し出し冊数は多くすばらしい。26年度に計画されているシンポジウムは何を行うのか。

事務局

今後の図書館をどのようにしていくか、指定管理やリニューアルも含め検討をしていく。

[スポーツ課関連 質疑・意見交換]

委員

愛知県美術館の移動展示会は、小中学生にはよい作品に触れる機会となった。近隣市町にもよい美術作品があるので、今後は、借用して展示するなどしてほしい。また、経費削減策として、図書館の雑誌スポンサー制度はすばらしい。他の課においてもこうした創意工夫を願う。東浦町には、自然や文化財を生かしたウォーキングコースがたくさんあるが、交通量増加により危険が増しているのは残念である。経費削減も大事だが、今あるものを生かすことも考えてほしい。

事務局

マラソン大会では、協賛者を募り、協賛金を運営費に活用している。ウオーキングコースについては、健康課の管轄で整備されている。スポーツ課としてもできることを考えていきたい。

委員

スポーツ課のスポーツクラブと健康課の同好会の交流が必要なように、健康課とスポーツ課はさらに連携することを願う。

事務局

スポーツ課も健康課も健康を目的とする意味では一緒である。スポーツクラブは専門性が高いが、ニュースポーツは健康づくりにもつながると考える。

委員

26年度備品購入予定ではバレーボール用支柱の予定が示されたが、小中学校のバレーボール用支柱も含まれるのか。

事務局

購入予定は、町体育館のバレーボール用支柱だけである。

委員長

第1号議案へのさらなる意見がないことを確認し、第1号議案の審議終了を宣告。

第2号議案「その他」について予定がないことを確認し、議事の終了を宣告。

生涯学習課長

次回、平成26年度第1回委員会について、平成26年5月28日（水）午前10時から文化センター2階視聴覚室で開催することを連絡し、午前11時10分に閉会を宣告。

備考 なし